

第3回 犀川大橋景観検討委員会

～金沢のシンボル犀川大橋の色彩を考える～



平成 20 年 6 月 25 日

-
- 1, これまでの色彩検討の経緯
 - 2, アンケート結果の報告
 - 3, 色彩検討
 - 4, 付属物の色彩について
 - 5, 金沢箔の活用について
 - 6, 解説板の設置について

これまでの検討経緯

これまでに計2回の委員会を開催するとともに、アンケートを実施しました。本日が最後の委員会となりますが、この後、本日の検討内容を踏まえ、補修を含む塗り替え工事を行って参ります。今後を含むスケジュールは下表のとおりとなります。

H. 19	H. 20											
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
● 第1回委員会開催		● 第2回委員会開催		アンケート実施		● 第3回委員会開催	補修工事・防災工事		犀川・犀星まつり			塗り替え工事

なお、これまでの委員会および本日の議事内容は、下表のとおりとなります。

● 第1回検討委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1, 現地確認 2, 規約の確認 3, 委員長選出 4, 委員会発足理由 5, 前回の決定経緯確認 6, 今後の進め方の確認 7, その他
● 第2回検討委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1, 景観コンセプトの確認 2, 色相・明度・彩度の絞り込み 3, アクセントの付け方 4, 本橋色彩候補色の検討 <p>(※第2回委員会の終了後、候補色についてのアンケートを実施)</p>
● 第3回検討委員会 (本日)	<ol style="list-style-type: none"> 1, 最終候補色の決定 2, 付属物の色彩検討 3, アクセントとしての金沢箔の活用 4, 本橋の解説板についての意見聴取

第1回景観検討委員会の議事概要

第1回目の委員会では、現地確認の後、主に現地の印象と橋の色彩に関する方向性に関してのご意見をいただきました。以下に概要を整理しました。

- デザインコンセプト、色彩選定の方向性に関する主要意見の整理
 - ・周辺建築（茶系）との関係を明らかにする必要がある。
 - ・周囲に埋没せず、ある程度存在感のある色彩が良い。
 - ・アクセントカラーを取り入れる必要がある。
 - ・周辺とのコントラストがあるよう、明るめの色彩を選定するのが良い。
 - ・照明（ガス灯をイメージしたオレンジ系の光源）と調和する色彩が良い。暮れなずむような雰囲気が良い。
 - ・浅野川大橋を代表格とする浅野川は着物が映えるような女性的な雰囲気があり、暖色系である。（それに対し）犀川（犀川大橋）は男性的な寒色系がよい。
 - ・参考事例にあるような赤や黄（高彩度色彩）は好ましくない。
- その他
 - ・日本の伝統色から選定するのが良い。
 - ・文化財の価値をPRする必要がある。
 - ・金箔を用いてみたい。

【犀川大橋景観デザインコンセプト】

①周辺自然環境との調和

周辺の建築物は、様式・色彩・規模等、時代の要請や技術の進歩、経済的な豊かさの変化などからその姿を変えましたが、変わらなかった重要な景観構成要素の「犀川」「周辺の緑」「空」と常に調和する色彩が選ばれてきました。

②シンボル性

本橋形式そのものが既に示すように、金沢市街地中心部への玄関口として常に「シンボル」であり続けてきました。

③金沢らしさ

様々な文化工芸が今も色濃く受け継がれている金沢は、常に美しい自己表現を追求してきました。犀川大橋の「お色直し」も常に意識されてきました。

【意見のまとめ】

- ①「明度」については、明るい色彩がよいとの意見が多く見受けられました。
- ②「彩度」については、色味で表現すべきではないとの意見から高めは回避した方がよいようです。
- ③「色相」については、水と緑に代表される寒色系、電灯の暖色系など、様々な意見がありました。
- ④金箔など、アクセントが必要との意見がありました。

第2回景観検討委員会の結果概要

第2回目の委員会では、本橋の具体的な色彩に関してのご意見をいただきました。以下に概要を整理しました。

- グラデーションに関する主要意見の整理
 - ・グラデーションはすばらしいアイデアで、市民からも好感が持たれている。
 - ・橋の形状から考えると、現在と同様な水平方向のグラデーションが良い。
- 色彩に関する主要意見の整理
 - 【青緑系に関する意見】
 - ・「錆青磁」が、金沢の香りもありつつ、浅野川の暖色系との対比ともなり、この色を基本としたグラデーションとしてみてはどうか。
 - 【紫系に関する意見】
 - ・紫系あるいは「灰桜」が良い。冬にも暖かみを感じられ、華やかさもある。
 - ・「品格・気品」といった金沢らしさを表す「薄藤」、「薄色」が良いと思う。
 - 【青系（現状）に関する意見】
 - ・金沢のまちは所々に現代的なものを取り込んだものとなっており、現在の青系の色は現代的なセンスを感じさせる。
 - その他
 - ・橋銘板については、地を金箔として、文字を焦げ茶系の色としてみてはどうか。
 - ・アンケートの方法については、ホームページ上だけでなく、イベントなどに合わせて実施するなど配慮して欲しい。

【意見のまとめ】

- ①市民に浸透しつつあるグラデーションの技法を踏襲することとしました。
- ②色相については、「青緑系」、「青系（現況）」、「紫系」の3候補に絞られました。
- ③金沢らしさの表現として橋銘板に金箔を活用することとしました。

※その他の意見として...

- ・青緑系については「10BG」、紫系については「10P」という具体的な色相が提案されました。
- ・アンケートを引き続き実施することとし、その際、インターネットのみのアンケートで主婦層の意見が減少傾向にあったため、HP以外のアンケート手法も検討することとしました。

アンケート調査の結果

前回の委員会終了後、地域のイベント会場（浅野川園遊会）および国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所のホームページにて、犀川大橋の新しい色彩に関してアンケート調査を実施しました。結果は以下のとおりとなりました。

【回答者数】

●浅野川園遊会アンケート：646名 / ●国道事務所HPアンケート：50名



浅野川園遊会でのアンケートの様子

Q1. 犀川大橋の新しい色彩としてふさわしいと思う色を、1つ選んでください。

第1位：青緑系 42%（浅野川園遊会：42%/事務所HP：56%）

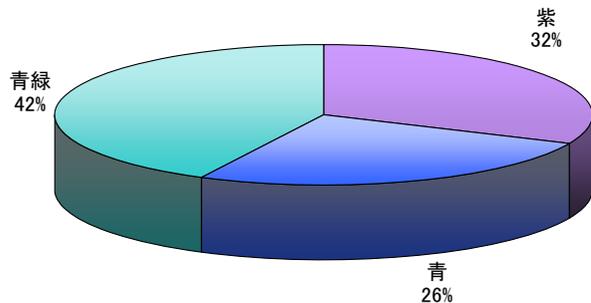
第2位：紫系 32%（浅野川園遊会：32%/事務所HP：24%）

第3位：青系 26%（浅野川園遊会：26%/事務所HP：20%）

→ 現状の「青系」についても好まれていたものの、「青緑系」や「紫系」などの新たな色彩に変更することへの期待が大きいことがうかがえます。

【Q1 アンケート集計結果】

（※浅野川園遊会でのアンケートと事務所HPアンケートの結果を合計したもの）

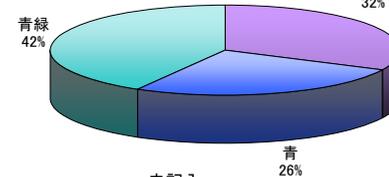


《参考》アンケート調査方法の違いによる回答の傾向

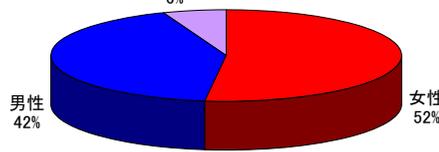
今回実施した2種類のアンケート調査について、それぞれの結果は以下に示すとおり隣、調査方法により差異が生じていることがうかがえます。

【浅野川園遊会アンケート】

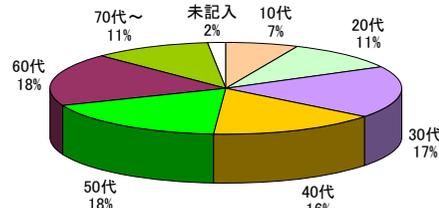
●色彩



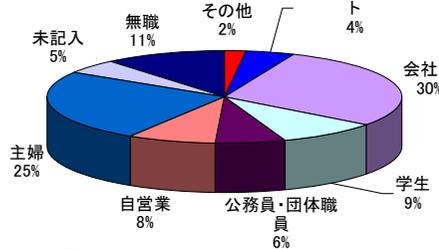
●性別



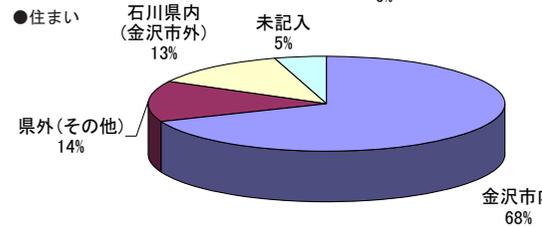
●年齢



●職業

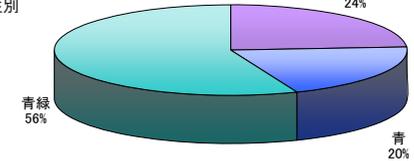


●住まい

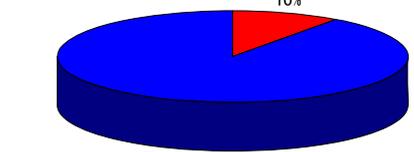


【事務所HPアンケート】

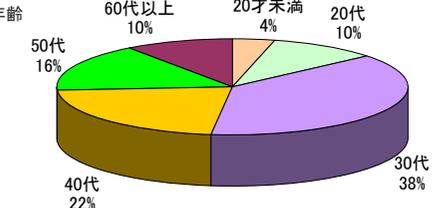
●性別



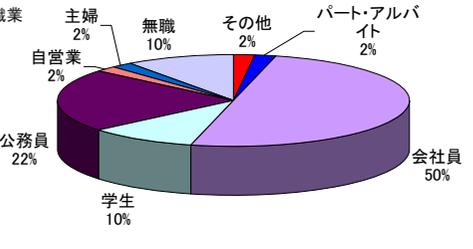
●性別



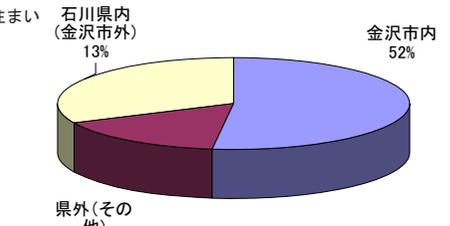
●年齢



●職業



●住まい



Q2. 犀川大橋の色彩についての自由意見

(色や金沢らしさの表現についてピックアップしました)

●その他意見 (浅野川園遊会)

【コンセプト、考え方に関する意見】

- ・あまり古びないような工夫を期待します
- ・もう少しレトロな方が良いと思う
- ・気分一新
- ・今のはちょっと地味だと思ふ
- ・今までとちがった印象を期待しています
- ・今までと一味違った色がどうかなあ、—と思います
- ・車が多く通るのでさわやかな色がいいと…思われ!!
- ・一風変わったおもいきった色ですが、そのことが特徴を表すことになると思います (紫)
- ・グラデーションは大変いいと思います
- ・昭和30年代の犀川大橋は今より良かった
- ・Green= 緑 =ECO=Tree-CO2 削減
- ・歴史を重んじたものに
- ・歴史の町に合った色彩でやってほしい
- ・緑の犀川大橋にふさわしい ライトアップ
- ・町にマッチするので良いと思いました (青緑)
- ・手すりも同系色にぬりかえた方が良いかも。
- ・もっと花がたくさんあるといいです
- ・街並にマッチした色に仕上げてください
- ・おしゃれなセンスのいい色
- ・夜のライトアップ時に映える色合いで
- ・川の流れ、海のイメージとして青を選びました。
- ・男川のみようにふさわしく 男らしい青と自然の緑のミックス!!
- ・紫か今の青系 景観に調和したものが良いです。橋だから水をイメージしたものが良いかもしれませんね
- ・桜や樹々とマッチすると思う (紫)
- ・犀川大橋のシンボルですから大きく

【金沢らしさに関する意見】

- ・金沢のイメージ的には紫でも良いのではないかと
- ・金沢のきれいな景観をこわさないような建築になるといいと思います。
- ・金沢のシンボルですので 景色にマッチした色が良いですね
- ・金沢のシンボルとして、ますます情緒のある橋になればいいです。
- ・金沢は寒いから寒々しくない方が良い
- ・金沢らしい色で
- ・金沢らしい色は緑の多い町にふさわしい 少緑が入った方が良い
- ・金沢中心街の入口にあたりますので、金沢らしい古都のイメージを思い込める色が良いと思います
- ・別になし 金沢らしい風景が良いと思います
- ・片町の入口
- ・緑の多い金沢のイメージがあるので色彩はハデにならない青緑系が良いように思う
- ・ハデな色は金沢にふさわしくないです

●その他意見 (事務所HP)

【コンセプト、考え方に関する意見】

- ・景観との調和をみると紫が一番しっくりとくるし、高貴な気がします。
- ・大橋周辺や上下流域との景観を考えるとあまり派手な色彩は合わないと思う。紫が一番調和していないように感じた。
- ・中日新聞の記事を見た時からイメージに桜の色合い、パープルの薄桃色グラデーションが浮かびました。絶対に紫ですね。明るくて白山の山にも背景にもなじんでいると思います。北陸は暗いイメージに思われておりますし… 明るくて楽しい感じです。小さい頃犀川で泳いだりしてましたし…暗い寒色系よりも暖色が…とても好印象です。
- ・背後の街、遠景とマッチする色彩として、青緑が適当と考えられます。なお、もっと細かく色彩を選んでもらうためには、バーチャルリアリティなどの動画で昼景色・夜景などもあわせて提示し、選定してもらうことも、考えられると思います。

【金沢らしさに関する意見】

- ・金沢は観光地であり、国内外から多くの方が訪れます。少しでも多くの方のイメージが「良い」となる色とした方が良くと思います。青緑は腐った水に生える「藻」のイメージ、紫は「暴走族・ヤンキー」のイメージが拭えませんが。中間色ではなく、清々しい空のイメージである青が万人に親しまれるのではないかと思います。(「これからもずっと」に賛成!)
- ・銘板の金文字は「中華街」のイメージがどうしても付き纏います。金箔も華やかで確かに素晴らしいものですが、同じ金でもキンピカではなく「金古美色」とすれば、「男橋」というニックネームに相応しい歴史と重厚さをイメージ出来るものと考えます。お忙しいところ恐縮ですが、宜しく願います。
- ・紫は高貴なイメージがあり、他で観たことがなく、金沢のシンボルとして良いと思います。

【色に関する意見】

- ・かつての白色がいいなあと思いますが、10年に一度程度、変更されているそうで。市民・県民参加のワイワイガヤガヤの論議、といった感じで。
- ・ツートンカラーも良いのでは、と思いますが、いかがでしょうか?例えば、上下で若干色を変えてはどうでしょうか?但し、薄めの色で、青緑を基調にして途中からぼかしていくような感じでは?
- ・もっとハッキリした色にならないのでしょうか。私は天井アーチ部はシルバーで柱(筋交い)部は濃いグレーがイイのですが、グレーの部分は赤とか淡いブルーなどでも良いかな。シルバー部は額縁の緑みたいになります(歩道の手すりとかあわせて)。
- ・温かみのある色合いで紫がよいと思います。回りの景観にもマッチするし、今までにない色彩だから是非お願いします。
- ・花のトンネルのようで、美しいと思った。赤系に近い色がいいと紫を選択した。3段階のグラデーションではなく、5~10段階のグラデーションがキレイだと思う。今と同じパターンではつまらない。
- ・敢えて選ぶなら青緑だけ、赤系の色にしてほしかった。
- ・青、みどり、は海や川や。赤は山の背景にマッチすると思いますが紫はイメージが浮かびにくいと思います。
- ・落ち着きのある色合いが望ましいのではないのでしょうか。
- ・緑色が少し混ざった方が冬のとき少しはほのぼのとするので良いと思う。

【色彩の変更に対して否定的な意見】

- ・この3色の選択はないと思います。とても金沢らしいとは微塵も思えません。どれも気持ち悪いです。Q1を入れないと投稿できないようなのでとりあえずチェックしますが、きつと金沢にきた観光客はがっかりします。再考を。
- ・市街地にある橋であることから、軽快な色彩が良いのではないかと。現在の色彩について、市民から多数の反対がなければ、継続させることが望ましいと思われる。

【その他の意見】

- ・次回は友禅や蒔絵のような柄も検討してみてもどうか。

【まとめ】

橋のコンセプトから、具体的な色彩に関する意見まで様々な意見を頂きました。

- ・新たな色彩への変更を望む声が多い。
- ・周囲との関係としては、「馴染む」ような色彩とすること。
- ・金沢の歴史性や緑豊かなイメージを踏まえることが重要。

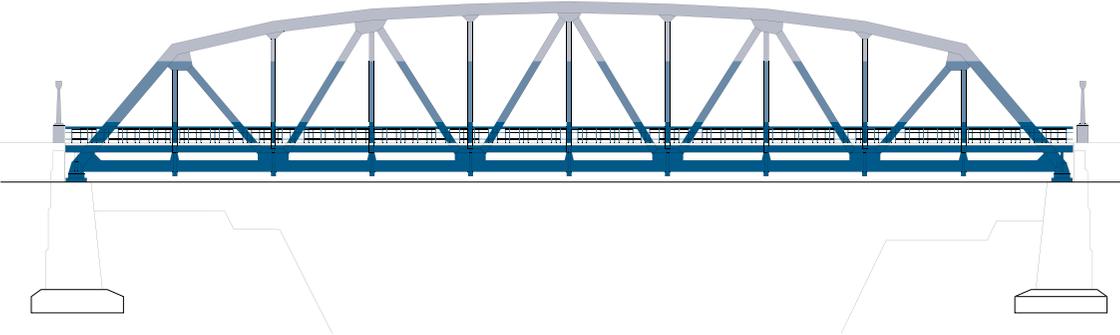
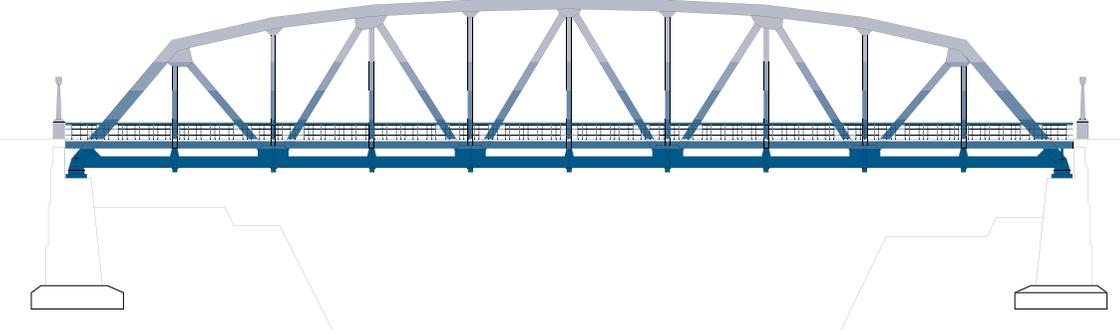
グラデーションを構成する色彩の段階

前回の委員会において「市民に浸透しつつあるグラデーションの技法を踏襲する」ことが承認されました。このグラデーションを構成する色彩の段階については、現状では5段階となっておりますが、色の变化を少なくした場合や、逆に多くした場合について検討を行いました。右記にその結果を示します。

これにより、現状でも採用されている「5段階」でのグラデーションが最も妥当であると考えます。



現在のグラデーション

グラデーションの色彩の段階	側面図
3段階とした場合	<ul style="list-style-type: none"> ・段階が少ないため、色彩の変化が大きくなるためグラデーションとは言い難い。 ・単なる色の塗り分けになってしまう。 
5段階とした場合	<ul style="list-style-type: none"> ・3段階に比べ、徐々に色彩が変化していきグラデーションを構成している。 ・現状と同等な色彩の段階となっており、適度なグラデーションが構成され、塗料の色の管理も問題無く行えることから、最も妥当と考えられる。 
5段階以上とした場合	<ul style="list-style-type: none"> ・段階が増えれば増えるほど色彩の変化が細くなり、より自然なグラデーションとなる。 ・ただし、技術的には塗料の色の管理が困難となり、作業的にも効率が低下する。

グラデーション配色詳細検討

委員会で概ね方向性が出された案を「基本案」（下写真参照）とし、これに対し、これまでの検討結果を踏まえ、詳細検討として更に「追加案」を作成しました。

基本案および追加案の考え方は、以下の通りです。

基本案：委員会で概ね方向性が出された案

検討案(1)：基本案をベースに、より彩度を下げた案

検討案(2)：側縦桁に配色されている色に、日本の伝統色を用いた案

各案毎にそれぞれ、前回委員会で意見のありました色相（青緑系・青系・紫系の3パターン）を当てはめ、合計9案のグラデーション配色案を作成しました。

なお、各案のフォトモンタージュの比較について、次ページ以降に整理しました。

	基本案			検討案(1) (彩度を下げる)			検討案(2) (日本の伝統色(全体低彩度))		
	第1案	第2案	第3案	第4案	第5案	第6案	第7案	第8案	第9案
	青緑系	青系(現況)	紫系	青緑系	青系	紫系	青緑系	青系	紫系
H	10BG	10B	10P	10BG	10B	10P	-	-	-
①	7.5/1.0	7.5/1.0	7.5/1.0	8.0/1.0	8.0/1.0	8.0/1.0	0.4G 7.5/0.5	5.8B 7.5/0.5	3.2P 7.5/0.5
②	6.5/2.5	6.5/2.5	6.5/2.5	7.0/1.5	7.0/1.5	7.0/1.5	0.4G 7.0/1.0	5.8B 7.0/1.0	3.2P 7.0/1.0
③	5.5/4.0	5.5/4.0	5.5/4.0	6.0/2.0	6.0/2.0	6.0/2.0	0.4G 6.5/1.0	5.8B 6.5/1.0	3.2P 6.5/1.0
④	4.5/6.0	4.5/6.0	4.5/6.0	5.0/2.5	5.0/2.5	5.0/2.5	0.4G 6.0/1.0	5.8B 6.0/1.0	3.2P 6.0/1.0
⑤	3.5/8.0	3.5/8.0	3.5/8.0	4.0/3.0	4.0/3.0	4.0/3.0	利休鼠 0.4G 5.2/1.3	浅葱鼠 5.8B 6.0/2.4	鳩羽鼠 3.2P 4.9/1.3
備考	<ul style="list-style-type: none"> 傾きをきつくし、彩度の変化を小さくする 明度、彩度を今回委員会の検討結果に割り当てる (明度=5以上を目安、彩度=3以下) 						<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統色を⑤にする 上方に明度を変えていくことで、グラデーションを表現 		



基本案/第1案：青緑系グラデーション



基本案/第2案：青系グラデーション（現況と同色に塗り替え）



基本案/第3案：紫系グラデーション

	青 緑 系	青 系	紫 系
基本案			
検討案（1） （彩度を低く）			
検討案（2） （日本の伝統色）			

	青 緑 系	青 系	紫 系
基本案			
検討案（１） （彩度を低く）			
検討案（２） （日本の伝統色）			

	青 緑 系	青 系	紫 系
基本案			
検討案（１） （彩度を低く）			
検討案（２） （日本の伝統色）			

	第 1 案（基本案）	第 4 案（検討案(1)）	第 7 案（検討案(2)）
視点① 上流から下流側を見る			
視点② 下流から上流側を見る			
視点③ 歩行者からの視点			

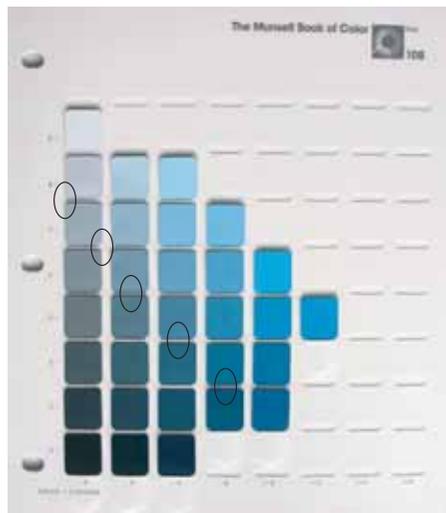
	第 2 案（基本案）	第 5 案（検討案(1)）	第 8 案（検討案(2)）
視点① 上流から下流側を見る			
視点② 下流から上流側を見る			
視点③ 歩行者からの視点			

	第 3 案（基本案）	第 6 案（検討案(1)）	第 9 案（検討案(2)）
視点① 上流から下流側を見る			
視点② 下流から上流側を見る			
視点③ 歩行者からの視点			

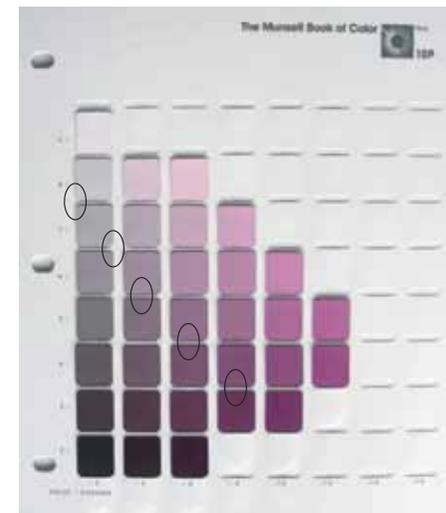
第 1 案



第 2 案



第 3 案



第 4 案

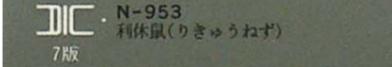
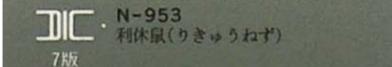
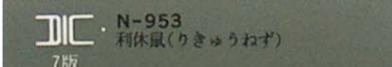
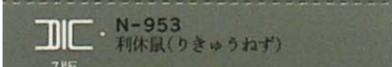
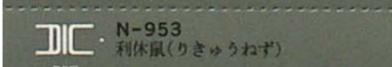
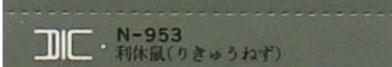
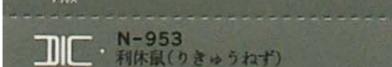
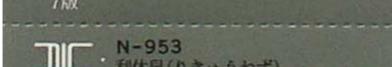
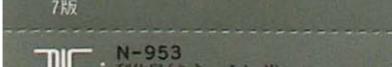
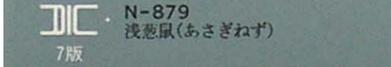
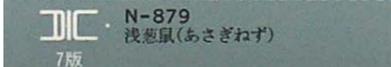
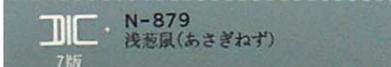
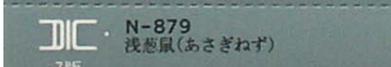
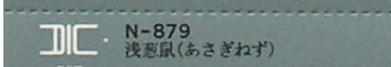
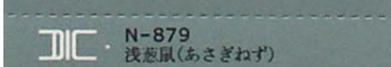
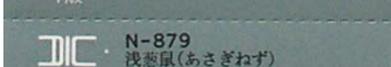
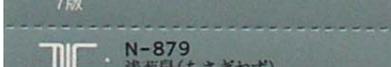
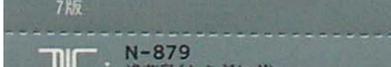
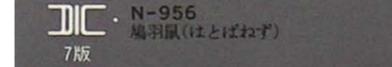
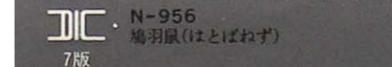
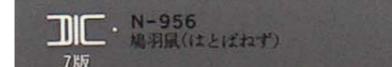
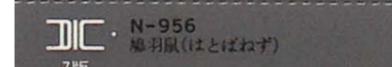
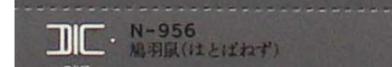
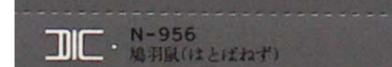
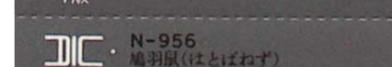
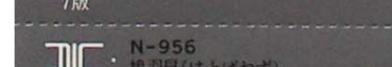


第 5 案



第 6 案



第7案 (利休鼠)	第8案 (浅葱鼠)	第9案 (鳩羽鼠)
<p>N-953 Fグロスメジューム 79.6 " 85墨 8.0 " 58原色藍 7.7 " 48黄 4.0 " 14紅 0.7</p> <p>N-953 利休鼠(りきゅうねず) グリーンッシュ グレイ</p> <p>利休は葉茶の緑みを形容したもので、緑みがかかったグレイをいう。日本のような湿度の多い気候のところでは霧や霞(もや)がちこめ、草木の緑も遠くからはこのような色に見えることがある。</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p> <p> N-953 利休鼠(りきゅうねず) 7版</p>	<p>N-879 Fグロスメジューム 80.4 " 58原色藍 10.0 " 48黄 3.4 " 85墨 3.3 " 14紅 2.9</p> <p>N-879 浅葱鼠(あさぎねず) グレイッシュ スカイ</p> <p>錆浅葱(さびあさぎ)より更に彩度が低く、わずかに浅葱がかかった灰色に近い色をいう。</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p> <p> N-879 浅葱鼠(あさぎねず) 7版</p>	<p>N-956 Fグロスメジューム 73.8 " 58原色藍 13.3 " 28金赤 6.9 " 85墨 6.0</p> <p>N-956 鳩羽鼠(はとばねず) パーブリッシュ グレイ</p> <p>鳩羽紫も彩度の低い色だが、鳩羽鼠はそれより更に彩度の低い、かすかに紫みがかかったグレイをいう。</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p> <p> N-956 鳩羽鼠(はとばねず) 7版</p>

現在の夜間景観

本橋における現在の夜間景観は、下写真に示すとおりで、黄色みがかかった照明により、橋本体の本来の色彩は認識できず、全体に茶色がかかったような色彩として認識されます。



正面から見た本橋の
夜間景観



本橋の歩道上からの
夜間景観



薄暮の時間帯におけ
る本橋の姿

夜間照明下での色見本の見え方

本橋の照明下での色見本の見え方は以下に示すとおりで、夜間においては、本来の色彩の違いは認識しにくく、どれも同じように見えます。よって、本橋の色彩決定においては、夜間の見え方への配慮は必要とせず、昼間の見え方を重視することが必要であると言えます。

第1案	第2案	第3案

現在の付属物の色彩

本橋の付属物として、色彩変更に関わるものとしては、照明器具、歩行者用信号機、高欄等があげられます。

現在の付属物の状況は、以下のとおりとなっています。



【照明器具・信号機】
本橋のグラデーションに相当する色彩とほぼ同等に塗られています。



【照明器具（夜間）】
黄色みがかかった照明となっています。



【高欄】
アルミ製で、材質本来のシルバー色となっている。現状では腐食等の問題は発生していない。

付属物の色彩についての考え方

現状におけるの色彩の考え方や本橋との関係等を考慮し、付属物の色彩については以下のように考えます

●照明器具等の色彩についての考え方

- ・照明器具および歩行者用信号機については、橋本体に取り付けられており、グラデーションの一部を構成することとなるため、本橋のグラデーションに相当する色彩とします。
- ・なお、歩行者用信号機については、警察に確認を得ることが必要となります。

●高欄の色彩についての考え方

- ・高欄については現状で問題が発生しておらず、再塗装等補修の対象とはならないため、現況のシルバー色から「変更なし」とします。
- ・現在の高欄はアルミ製であり、表面がシルバーアルマイト仕様となっており、再塗装のしにくい仕上げとなっています。
- ・橋本体の候補色と高欄の関係を見ると、粗悪な景観とはならず、色彩等変更の必要性はないと考えられます。



照明器具等は橋本体のグラデーションに相当する色彩とします。

高欄は、現況のシルバー色から「変更なし」とします。

金沢箔の橋銘板への活用について

前回の委員会において、金沢らしさを表現する方法として橋銘板に「金沢箔」を活用することが提案されました。

金箔をアクセントとして際立たせるためには、濃い色彩との組み合わせが望ましいことから「こげ茶色」を採用することとし、また、最外枠は橋本体の色彩と同色として、下記に示す組み合わせパターンについて検討を行いました。

なお、参考案として、最外枠を側縦桁に配色されている色とした場合についても検討を行いました（右図参照）。



参考案

（第1案をベースに、最外枠を側縦桁に配色されている色とした場合）

<p>第1案 (文字をこげ茶色、地を金としたパターン)</p>	<p>第2案 (第1案をベースに内枠をこげ茶色としたパターン)</p>	<p>第3案 (文字および内枠を金、地をこげ茶色としたパターン)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・凹凸のある内側枠にも金箔を施し、光の加減による陰影が楽しめます。 ・明るめに見えるため、比較3案の中では橋本体の色彩と馴染んで見えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・凹凸のある内側枠を「こげ茶色」とする ・文字の周囲を縁取ることにより、引き締まった感じになります 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2案を反転させ、文字等を浮き立たせた案です。 ・橋本体の色と対比して、重厚さが増してより際だって見えます。

	第1案 (文字をこげ茶色、地を金としたパターン)	第2案 (第1案をベースに内枠をこげ茶色としたパターン)	第3案 (文字および内枠を金、地をこげ茶色としたパターン)
青緑系 (第1案)			
青系 (第2案)			
紫系 (第3案)			

金箔の犀川大橋への適用可能性について

屋外の金箔処理は、神社仏閣のモニュメント等、一部では行われているようです。(本橋周辺では、本頁右下の2事例があります) 本橋への適用可能性については、基本的に「可能」です。しかしながら、現地での下地処理・箔接着が極めて困難で精度を欠くことから、以下の条件において、実現可能性があると考えられます。

●条件

- ・金箔を設置する部分を取り外し、工場等屋内で金箔工、下地処理を行うこと。

●可能対象

- ・部分的に取り外しが可能な「橋銘板」のみを対象とします。
(※上部の高欄については、取り外し不可のため対象外としました。)

●その他留意すべきこと

- ・金箔をアクセントとして際立たせる為には、背景が濃い色彩がよい。
- ・金属下地に剥離が発生しないよう、ケレン除去等を入念に行う必要あり。
- ・下地色彩や平滑処理で金箔の発色が異なる。
- ・屋外であれば、紫外線対策を施した方が長持ちする。
- ・車道(ドライバー)への照返しが気になるが、マット仕上げ等加工技術は多様。

銘板の筆者について

銘板左下には「久一書」と記されています。これは、大正13年、すなわち竣工当時の石川県知事「長谷川久一氏」が書かれた由緒あるもので、今日まで大切に受け継がれてきたものです。

色彩の変遷について、右に示しておりますが、「白地に黒文字」「薄い青地に金文字」など様々であったようです。



白色クリーム系(昭和50年～昭和59年)



黄緑系(昭和59年～平成5年) ※新聞カラー版より



青色グラデーション系(平成5年～現在) ※平成12年撮影



金箔見本と現況の関係(絵柄に使用されているような反射の鈍い加工も可能です)



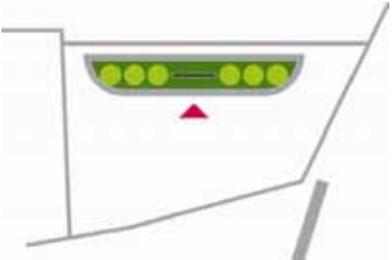
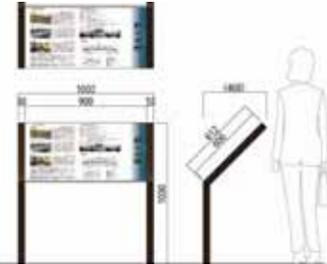
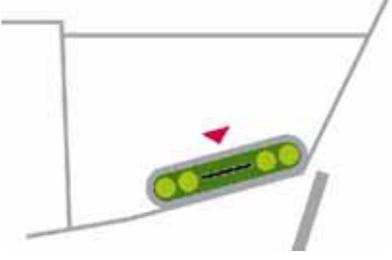
金箔活用事例(1) 鳳鳴橋(ほうめいはし、富山県高岡市河原町) 下地: 銅



金箔活用事例(2) 雪吊りモニュメント(むさし交差点エムザ前) 下地: 樹脂

●解説板の配置・形状等

解説板の設置位置や形状等については、いくつかのバリエーションが考えられます。以下にその組み合わせによる比較案1～3を作成しました。

	平面配置	姿 図	設置イメージ	特徴等
第1案 板状タイプ			 ※設置位置は第3案と同等とすることも可能	<ul style="list-style-type: none"> ・薄くシンプルな形状ながら重厚感の漂う、景観との相性もよいデザイン。 ・高さがあるため視界を遮り、限られた空間では圧迫感を与える。 ・アルミ押出形材を用いた継ぎはぎが無くボルトを見せない造形は高い意匠性があるがコスト高になる。
第2案 斜板タイプ		 ※盤面の背景色は第1、3案と同等とすることも可能		<ul style="list-style-type: none"> ・本体表示基板を傾斜とすることで橋と解説板とを交互に眺め易い。 ・本体高さを比較的低く抑えることができる。 ・奥行き方向に空間を取るため、限られた空間では奥行き方向に制約が出る。 ・鋼材等を用いたシンプルな構造によりコストを抑えている。
第3案 門型タイプ			 ※設置位置は第1案と同等とすることも可能	<ul style="list-style-type: none"> ・定番デザインであらゆる空間にマッチする。 ・高さがある為視界を遮り、限られた空間では圧迫感を与える。 ・アルミ押出形材を用いた継ぎはぎが無くボルトを見せない造形は高い意匠性があるがコスト高になる。

1993（平成5）年開催 前回検討委員会結果

橋の塗り替え色彩は「青灰色系グラデーション」が採用されました。

●デザインコンセプト

- 1) 橋と街並みの景観との関係が良好に保たれること
 - 2) 色彩デザインに金沢の雰囲気が明快に込められること
- ※特に「2）」については、市民アンケートからも「シンボルとなる橋」を意識したいという気持ちが表れていた結果と同じ思想です。

●色彩選定の具体的な配慮点

金沢らしさを表現するアクセントカラーとして日本の伝統色の中から「浅葱」「空」「納戸」などから青系を導き出し、加賀友禅に見られるグラデーションの配色法を試んでいます。具体的色彩は以下のとおりです。

●その他検討結果

- ・歩道拡幅形状、舗装材材質についても検討されました。
- ・高欄、照明についても議論されました。

